

原 著

主体的に問題を解決していく子どもの育成

— 「総合的な学習の時間」の教育課程の創造 —

小林 元之 (広島県福山市立日吉台小学校)

2002年度の学習指導要領完全実施に向けて、新しく創設された「総合的な学習の時間」の積極的な取り組みがなされている。しかし、単元の内容開発が多く、「活動あって、学びなし」の批判の声を耳にするようになった。本校は、1999年度から、文部科学省指定研究開発学校として、「総合的な学習の時間」と「教科・道徳・特別活動」との関係や「総合的な学習の時間」の3つの内容の相互関係や評価を中心に、基礎的な学力の一層の定着を図る教育課程の研究開発を行ってきた。その開発した内容について述べることにする。

キーワード：総合的な学習の時間、教科・道徳・特別活動との関係、評価

I. はじめに

平成14年度(2002)から完全学校週五日制の導入による新しい学習指導要領の実施により、小学校は新たな時代を迎えようとしている。子どもたちを取り巻く地域社会の環境も少子化、高齢化、自然環境の悪化など、大きく変化してきている。

子どもが成人する10年先、15年先は、さらに情報化・国際化・少子化・高齢化などが進み、環境の変化の激しい社会になることが予想される。どのような社会になっても、それらに柔軟に対応しながら、自分らしさを発揮して問題解決していく力がこれからの子どもに求められている。そこで、本校では、平成11年度(1999)から、「主体的に問題を解決していく子どもの育成」を研究主題に掲げ、授業づくりを通して研究を進めてきた。

平成11年度(1999)は、先進校視察や文献研究などによる基礎研究を中心に行い、総合的な学習の時間(本校では、「総合」と呼んでいる)の内容の開発を進めた。

平成12年度(2000)は、前年度の成果と課題を基に、各教科、道徳、特別活動と総合的な学習の時間との関連、及び総合的な学習の時間における学年の系統性の研究を進めた。また、クラブ活動と委員会活動において、従来のやり方の改善を図った。さらに、基礎・基本として、読書タイムを設定し、全校で読書に取り組んだ。

平成13年度(2001)は、前年度の成果と課題を基に、教科指導の一層の充実、学び方における基礎・基本

の定着、総合的な学習の時間の単元開発、評価研究について取り組んだ。

3年間の中で開発した内容について述べることにする。

II. 総合的な学習の時間の内容開発

1. つけたい力

小学校学習指導要領解説総則編⁽¹⁾には、総合的な学習の時間のねらいを次のように示している。

- ① 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- ② 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

このことを踏まえ、表1のようにつけたい力をまとめ、目指す子ども像を明確にした。

表1 つけたい力

つけたい力	目指す子ども像
課題発見力	<ul style="list-style-type: none"> ○人・自然・社会とのつながりや出来事に興味や関心をもつ子 ○自分の課題を見つける子
思考力 判断力	<ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもち、学習計画を立てる子 ○効果的に調べ方や学び方を考える子 ○自分が納得するまで追究する子 ○情報を取捨選択する子 ○自分の考えをもち、まとめる子
表現力	<ul style="list-style-type: none"> ○相手のことを考えて、自分から進んでコミュニケーションをとる子 ○調べたことや自分の考えを適切に伝える子 ○調べたことや思ったことを効果的な方法で表現する子 ○進んで情報交換（質問や意見）をする子
実践力	<ul style="list-style-type: none"> ○教科・道徳・特別活動などで学んだ経験・知識・技能などを「総合」に積極的に生かす子 ○「総合」で学んだことを教科・道徳・特別活動に積極的に生かす子 ○学んだことを自分の生活に生かし、自分の生き方を考える子
自己評価力	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価や相互評価を通して、自分のよさや課題に気付く子 ○自分のよさや課題を次の学習に生かそうとする子

2. 「総合」のテーマ

21世紀をいのち輝かせて生きる
—自分からの出発—

本校の子どもは、人とのかかわりがうまくできな

かったり、間違いや失敗をおそれて許可を求めたり、自分の思いを十分表現できなかつたりする傾向がある。それは、様々な体験が不足していることやこれまでの指導の在り方に原因があるため、子どもが自分のよさに気付いていなかったり、自分に自信をもてなかつたりするためではないかと考える。

そこで、子どもを取り巻く様々な社会や環境の変化、希薄な人間関係に対して、柔軟に対応し、自分に自信をもち、自分の生活を力強く切り拓いていってほしいと願って、「総合」のテーマを「21世紀をいのち輝かせて生きる—自分からの出発—」と設定した。

自分からの出発とは、自分自身を知り、自分のよさに気付く自己有能感や自分はかけがえのない存在であるという自己有用感を育て、自尊感情の高まりとなる内面の充実と、学んだことを生かし、自ら進んで他に働きかける発信力の育成の両面を意味している。

3. 「総合」の内容

小学校学習指導要領解説総則編¹⁾では、総合的な学習の時間の学習活動に関して、

- ①例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題
 - ②児童の興味・関心に基づく課題
 - ③地域や学校の特色に応じた課題
- などが示されている。

本校では、15年先はどんな社会になるかを考え、今までの教育実践も大切にしながら、“健康に生きる”のテーマに基づく横断的・総合的課題「日吉台発」、子どもの興味・関心に基づく教科発の研究課題「チャレンジ」、情報活用へ向けたコンピュータ・リテラシーの時間「情報」の3つから構成することにした。それぞれのねらい、内容、方法、時間数を次のように明らかにし、実践している。

(1) 日吉台発

ねらい	「健康に生きる」という学校全体のテーマに基づき、学年テーマを設定し、現代的な課題を考えることを通して、問題解決力を育て、その過程において、学び方やものの考え方を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにする。
内容	「健康に生きる」という学校全体のテーマに基づき、「心」と「体」の2つの領域において、教科を越えた横断的・総合的な研究課題を追究する。 3年 「心」(認め合う心) ・障害をもった人とともに 「体」(体づくり) ・体の力を伸ばそう 4年 「心」(認め合う心) ・男女とともに 「体」(体の仕組み) ・体の不思議を知ろう 5年 「心」(認め合う心) ・みんなとともに 「体」(食生活) ・健康的な食生活を考えよう 6年 「心」(律する心) ・自分を見つめて 「体」(病気の予防・生活習慣) ・私のライフスタイルを築こう
方法	○「ふれる」「つかむ」「もとめる」「まとめる」「生かす」の学習過程で行う。 ○体験的・実践的な学習及び課題選択学習を取り入れる。 ○学年または学級を単位として、同じ課題のグループで取り組む。
時間数	第3学年 60時間 第4学年 60時間 第5学年 65時間 第6学年 65時間

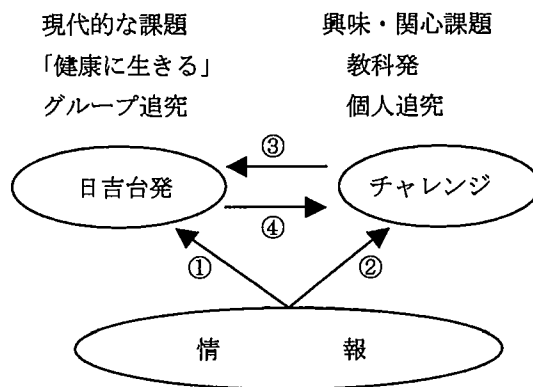
(2) チャレンジ

ねらい	○教科で学習したことから、自分で課題を見いだし、計画・追究・まとめをすることを通して、自ら学ぶ楽しさを味わうとともに、主体的・創造的に取り組む態度を育てる。 ○異学年交流を通して、学び方を学ぶ。
内容	子どもの興味・関心に基づき、教科の中から生まれた研究課題を追究する。 【第3学年・第4学年】 ・学級単位で同一教科から出発する。 ・教科の偏りをさけ、バランスよく広げていく。 ・個人で追究する。 ・3年生は2年生に、4年生は3年生に発表する。 【第5学年・第6学年】 ・学級単位で同一教科または複数教科から出発する。 ・教科の偏りをさけ、バランスよく広げていく。 ・個人で追究する。 ・5年生は4年生に、6年生は5年生に発表する。
方法	○「課題設定」「計画」「追究」「まとめ」「異学年交流」の学習過程で行う。 ○「チャレンジ」につながることを意識した教科指導をする。 ○学級を単位として、個人で取り組む。
時間数	第3学年 35時間 第4学年 35時間 第5学年 35時間 第6学年 35時間

(3) 情報

ねらい	<p>○操作する体験を通して、パソコンに慣れ親しむ。</p> <p>○パソコンを必然性のある、意味ある場面で、「道具」の一つとして利用し、その意味やよさを理解する。</p>
内容	<p>パソコン活用に向けた内容にする。</p> <p>【第1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お絵かきのソフト ・マウス操作（お絵かき等） <p>【第2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お絵かきのソフトの起動，終了 ・キーボード操作（計算等） ・マウス操作（お絵かき，計算等） <p>【第3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源スイッチの ON/OFF ・お絵かきのソフト <p>【第4学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーボードを使っての文字入力（ローマ字入力） ・データ保存 <p>【第5学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章作成（漢字の変換） ・表・グラフの作成 <p>【第6学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの作成 ・インターネットの接続
方法	<p>○「コンピュータ・リテラシー」の時間に基本操作を指導する。</p> <p>○「コンピュータ・リテラシー」から応用・発展して、「教科」「日吉台発」「チャレンジ」等で活用を図る。</p> <p>○学級を単位として、個人またはグループで取り組む。</p>
時間数	<p>第1学年・第2学年 10時間 （関連する教科から）</p> <p>第3学年～第6学年 10時間 （「総合」から）</p>

4. 「日吉台発」・「チャレンジ」・「情報」の相互関係
「日吉台発」と「チャレンジ」と「情報」の相互関係については、次のようにとらえている。



情報活用へ向けたコンピュータ・リテラシー

- ① コンピュータ・リテラシーから応用・発展して、「日吉台発」で活用を図る。
（情報収集，データ処理，プレゼンテーションなど）
- ② コンピュータ・リテラシーから応用・発展して、「チャレンジ」で活用を図る。
（情報収集，データ処理，プレゼンテーションなど）
- ③ 「チャレンジ」で獲得された学びを「日吉台発」に生かす。
（異学年交流による学び方，「課題設定・計画・追究・まとめ」を通して獲得された個人の問題解決力など）
- ④ 「日吉台発」で獲得された学びを「チャレンジ」に生かす。
（現代的な課題を追究するグループでの学びを通しての相互評価や自己評価など）

Ⅲ. 教科・道徳・特別活動との関連

1. 教科との関連

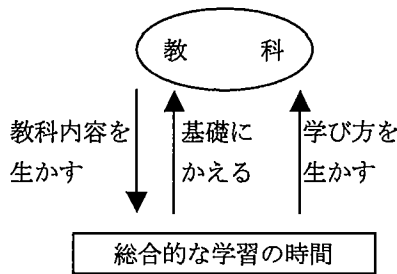
私たちは教科指導の中で、学問や科学などに関する系統的な知識や技能などを身近な生活と結び付けることによって、生きてはたらく知識を身に付けさせようとしている。一方、「総合的な学習の時間」においても、単に児童の興味・関心を中心にして現実的な生活上の課題を取り上げるだけでなく、それを追究する過程で、学問や科学などの様々な分野の知識や技能などを取り入れながら、問題の追究をより広げたりして知の総合化を図ろうとしている。

したがって、関連する「教科」の単元を意図的に「総合」の事前実施し、「総合」において、子どもが「教科」で学んだ内容を積極的に生かすように計

画している。

「総合」において、「教科」で学んだ内容を生かす過程の中で、子ども自らが「教科」の基礎・基本の大切さを実感することになり、基礎にかえる学びも期待できる。教師は、生かしていない実態に出合った場合には、個別の支援を行うと同時に、「教科」の基礎・基本の確実な定着を図る指導の在り方について、研修を行い、指導法の改善を図る必要がある。

また、「総合」において習得された学び方が、「教科」での学び方に生かされることも期待できる。



さらに、「教科」で学んだ力が、「総合」にどのように発展・応用しているかを探っていく。言葉を言い換えれば、「総合」の学び方を支えている教科の主な力を次のように明かし、実践していく。

- 国語…◇筋道を立てて文章に書く力
◇筋道立てて話したり、的確に聞き取ったりする力
- 社会…◇社会的事象から学習の問題を見いだし追究・解決する力
◇観察・調査したり、各種の資料を効果的に活用したりする力
◇調べたことを表現する力
- 算数…◇見通しをもち筋道を立てて考える力
◇数理的な処理を生かす力
- 理科…◇自然事象から問題を見いだす力
◇自然事象を科学的にとらえ、問題を解決する力
◇観察・実験を計画・実施する力
◇観察や実験の過程や結果を的確に表現する力
- 音楽…◇音楽を進んで表現する力
- 図画工作…◇造形感覚を生かして表現する力
- 家庭…◇身近な生活の課題を見つける力
◇家庭生活を見直し、身近な生活の課題を解決する力
- 体育…◇運動の課題の解決を目指して、活動の

仕方を考える力

◇身近な生活における健康や安全について考える力

例えば、5年生の日吉台発「健康日吉台21 スマイル マイ ヘルス」において、課題発見力を育てるために、事前に理科「植物の発芽と成長」において、問題を見いだす力を育てることを重点目標に授業を行った。また、学習計画力を育てるために事前に家庭科「小物づくり」「ふくろ作り」において、形や大きさ・必要なもの・作る順序などの計画する力を育てることを重点目標に授業を行った。また、まとめる力を育てるために、事前に国語科「みんなの読書計画」において、調べたことを作文に書き、図表やグラフなどを使って発表する力を育てることを重点目標に授業を行った。あわせて、5年生で省略内容になっている算数科「平均」を図表やグラフの理解を深めるために、平均の意味と処理を重点目標に授業を行った。さらに、話し合う力を育てるために、事前に社会科「食料の輸入に賛成か反対か」において、双方向で意見交流を行うディベートの授業を行った。

2. 生活科との関連

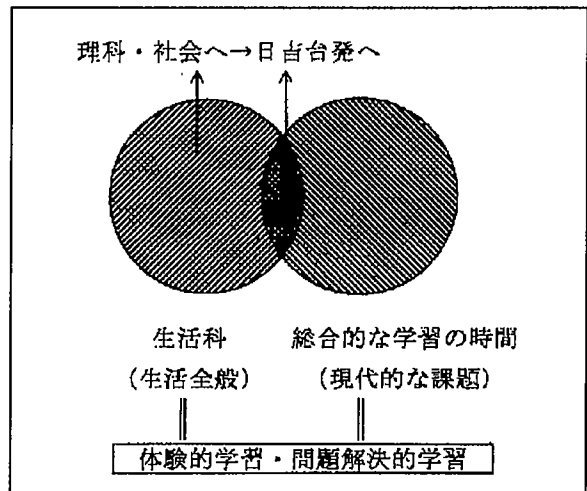


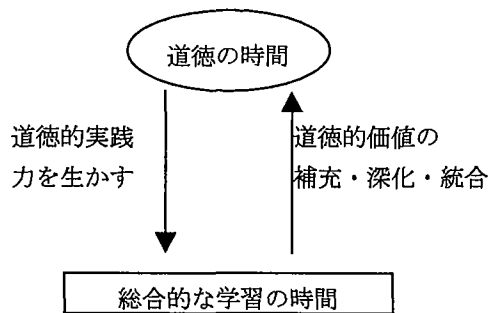
図1 生活科との関連

生活科との関連について、図1のようにとらえている。生活科も総合的な学習の時間も体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に展開しようとしている。しかし、扱う対象は、生活科は、生活全般であり、総合的な学習の時間の本校の対象は、「健康に生きる」という現代的な課題である。そして、その共通部分が「多様な人々との触れ合い」「動植物の飼育・栽培」「自分の成長」を内容とする単元である。

学年別では、第1学年の「家庭と生活」「動植物の飼育・栽培」「自分の成長」、第2学年の「地域と生活」「公共物や公共施設の利用」「動植物の飼育・栽培」「自分の成長」に当たり、この内容は、3学年からの「日吉台発」を意識して取り組む。

	心		体	
1年	支え合う 心	家族とと もに	いのち いのち	を育て よう
2年		地域とと もに		

3. 道徳との関連



道徳の時間に培われた道徳的実践力を「総合」の中で生かしたり、「総合」の中でふれる道徳的価値を道徳の時間に補充・深化・統合したりする。そのために、「総合」の単元構想を考える際、道徳の時間の位置付けを大切に考えている。

例えば、図2は6年生の「総合」の単元構想の中に道徳の時間を位置付けたものである。

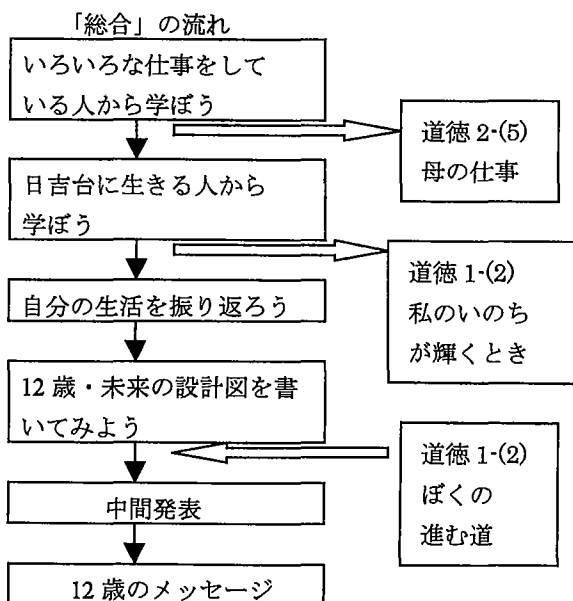


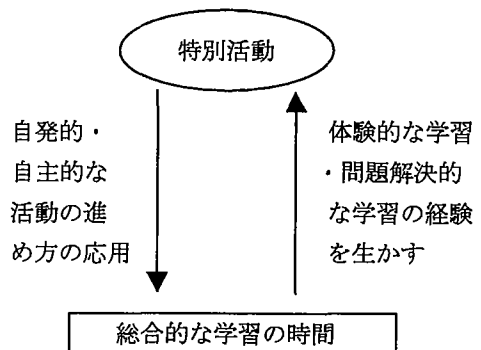
図2 道徳の時間の位置付け

「総合」の「12歳・未来設計図」の中で、日吉台に生きる人から学ぼうと、大けがをされながらもそれを克服された地域のお年寄りのお話を聞く活動を行う。子ども一人一人の受け取り方は様々であろうと考えられるが、この時期の子どもには、是非、「不撓不屈」「勇気・希望」といった道徳的価値について考えさせたい。そこで、この聞き取りの活動の後、「不撓不屈」「勇気・希望」という価値の自覚を補充・深化させ、道徳的実践力を育てるために道徳の時間を設定した。

4. 特別活動との関連

特別活動で培った自発的・自主的な活動の進め方を「総合」に応用し、生かしたり、「総合」における体験的な学習・問題解決的な学習などの経験を特別活動における活動場面で生かしたりする。

特に、委員会活動とクラブ活動は、従来の方法を大きく変えている。委員会活動においては、前もって決められた委員会について高学年の縦割り集団で行っていた活動を、昨年度から楽しい学校にするために必要な委員会について、3年生以上の学級単位の活動に変え、きらきら活動として実施している。クラブ活動においては、学習支援ボランティアとしての地域の方や教職員が指導にあっている。「自分たちで創るクラブ活動」を目指し、児童が計画・運営を行うようにしている。



IV. 評価

1. 評価の観点

2000年10月の教育課程審議会答申²⁾の「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について(中間まとめ)」の中で、評価の観点について次のように述べている。

「観点」については、各学校において、指導の目標や内容に基づいて定めることになるが、例えば、学習指導要領に定められた「総合的な学習の時間」

のねらいを踏まえ、「課題設定の能力」「問題解決の能力」「学び方、ものの考え方」「学習への主体的、創造的態度」「自己の生き方」というような観点を定めたり、教科との関連を明確にして、「学習活動への関心・意欲・態度」「総合的な思考・判断」「学習活動に関わる技能・表現」「知識を応用し総合する能力」などの観点を定めたり、あるいは、各学校の定める目標、内容に基づき、例えば、「コミュニケーション能力」「情報活用能力」などの観点を定めたりすることなどが考えられる。

本校の評価の観点は、本校の定めるつけたい5つの力（課題発見力、思考力・判断力、表現力、実践力、自己評価力）とし、それに関して低学年・中学年・高学年別の趣旨を作成した。例えば、中学年の趣旨は次のようになっている。

【中学年の趣旨】

課題発見力	①周りの人・自然・社会とのつながりや出来事に興味や関心をもつ。 ②自分が調べてみたいことを見つける。
思考力 判断力	①見通しをもち、学び合いながら学習計画を立てる。 ②いろいろな調べ方や学び方を考える。 ③ねばり強く追究する。 ④情報を集め、選ぶ。 ⑤自分の考えをもち、まとめる。
表現力	①相手のことを考えてコミュニケーションをとる。 ②調べたことや思ったことを適切に伝える。 ③調べたことや思ったことを効果的な方法で表現する。 ④質問や意見を述べる。
実践力	①教科、道徳、特別活動などで学んだ経験・知識・技能などを「総合」に生かす。 ②「総合」で学んだことを教科、道徳、特別活動に生かす。 ③学んだことを自分の生活に生かし、自分の生き方を考える。

自己評価力	①自分の学習を振り返り、自分のよさや友だちのよさに気付く。 ②自分のよさや課題を次の学習に生かそうとする。
-------	----------------------------------------------------------

そして、低学年・中学年・高学年別に評価の観点を具体化した評価規準を作成した。この評価規準は、「おおむね満足できる」状況を示している。そして、「十分に満足できる」状況については、その視点を示した。なお、評価規準に達していない場合は、「努力を要する」状況を示し、評価規準に達するように、特にきめ細かな支援をしていく。例えば、中学年の評価規準は次のようになっている。

【中学年の評価規準】

評価の観点	評価規準	十分満足できると判断する観点
課題発見力	新しい発見や疑問を話したり書いたりしている。	多く
	発見や疑問から課題を見つけ、話したり書いたりしている。	自分の力で
思考力 判断力	追究できる課題である。	広く 深く
	活動の順序・時間などを計画している。	自分の力で 適切に
思考力 判断力	目的にあった質問内容や調べ方を考え、判断している。	自分の力で 適切に
	最後まであきらめずに追究している。	進んで
	自分の課題に関連する情報を集めている。	進んで多く
	集めた情報から必要な情報を選んでいる。	自分の力で 適切に
思考力 判断力	自分の考えをまとめて	自分の言葉 で分かりやすく
	いる。	

	目的にあった図・グラフ・写真・絵などを取り入れている。	効果的に適切に
表現力	その場にあった対応をしている。	進んで適切に
	相手意識をもって話している。(速さ・主述・指示語・接続語等)	適切に
	資料を提示したり、指示棒を使ったりして表現している。	効果的に
	質問や意見を言っている。	進んで的確に
実践力	既習事項を生かしている。	進んで適切に
	「総合」で活用した学習方法を生かしている。	進んで適切に
	学んだことを生活の中で実行している。	進んで
自己評価力	自分のよさ・自信や課題について話したり書いたりしている。	的確に
	友だちのよさについて話したり書いたりしている。	的確に
	振り返りを踏まえた自分のめあてを書いている。	明確に

さらに、各単元ごとの評価規準を作成し、評価研究をしている。

2. 評価方法

次に示すような多様な評価方法を取り入れ、工夫している。

- ①ワークシート、学習カード、ノート、作文、絵、レポートなどの子どもの製作物
- ②発表や話し合いの様子
- ③子どもの自己評価や相互評価の活用
- ④教師による活動の状況の観察
- ⑤ゲスト・ティーチャーなど協力を得た人々からの評価の活用
- ⑥子どもとの対話

3. 個人ファイルの活用

子どもたちが自ら学習の過程を振り返り、学習の進め方や追究の方法、自分の考えなどについて自己評価するために、学習の過程で記入した振り返りカード、観察記録、作品などをファイルしている。

ファイルの仕方については学年で工夫しているが、今年に関しては、3年生はクリアフォルダ、4年生はフラットファイル、5年生はノート、6年生はドキュメントファイルを使っている。

自己評価には自分本位の思いこみや独りよがりな考えに陥るところがあるので、情報交換会や発表会の中で意見交流会を設定し、子ども同士の相互評価や教師からの指導を自己の学びに取り入れさせ、より適切な自己評価ができるように工夫している。

4. 通知票における評価

記述による評価とし、課題発見力、思考力・判断力、表現力、実践力、自己評価力について文章で書いている。顕著にとらえられる観点から書いていき、1年間を通して、全ての観点で評価できるようにしている。

V. 結語

いよいよ来年度より、学校週五日制のもとで、「生きる力」の育成を目指す教育課程が始まる。

本校は、10年先、20年先をいのち輝かせて生きる子どもの育成を目指して、教育目標を「豊かな心を持ち、主体性と実践力のある子どもの育成」と設定し、研究主題を「主体的に問題を解決していく子どもの育成」として、すべての教育活動を通してその具現化に努めてきた。

平成11年度より、文部科学省指定研究開発学校として、基礎的な学力の一層の定着を図る「総合的な学習の時間」(「総合」)を中心とした教育課程の研究開発に取り組み、そこから主題に迫る研究を進めてきた。

一年次は、教育構想の練り直しから出発した理論研究と、「総合」の単元開発に取り組んだ。自らの課題を楽しく追究する子どもが育ちつつあるなか、開発とは、「本校の学びをつくること」であることが分りかけた一年でもあった。

二年次は、本校の目指す学びを、「自らの課題から出発し、学んだことを自らの生活に生かす学び」「自尊感情の高まりが次の学習意欲につながる学び」と考え、「総合」について現代的な課題を追究する「日

吉台発), 教科から生まれた児童の興味・関心に基づく課題を追究する「チャレンジ」, コンピュータ・リテラシーとしての「情報」の3つの学習活動により, 学びをつくる研究に取り組んだ。主体的に問題解決する学習過程, 生活科と「総合」の関連, 「総合」と教科・道徳・特別活動との関連が次第に明らかになるなか, 意欲的に学び, 学んだことを次の学習や自分の生活に生かそうとする児童の姿も見えてきた。

最終年度の本年度は, 「総合」の学びを支える教科の力, 学びの定着を図る支援と評価の在り方について研究を進めてきた。そして, 低学年・中学年・高学年別の趣旨, 低学年・中学年・高学年別の評価規準, 各学年の単元ごとの評価規準を作成した。今後は, これらの評価規準をどの場面でのどのような方法で, 評価していったかの具体を明らかにしていき, 評価と指導の一体化を図ることを通して, 開発内容の修正をしていきたいと考えている。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省; 小学校学習指導要領解説総則編, 1999, p.45-49
- 2) 文部科学省; 「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について(中間まとめ)」教育課程審議会の答申, 2000
- 3) 天笠茂(編); 「学習活動の展開と評価」, 新しい教育課程と学習活動の実際 総合的な学習, 東洋館出版社, 1999, p.60-74
- 4) 日台利夫; 「カリキュラム作成方法の基本」, 総合的な学習の進め方 基礎・基本, 東洋館出版社, 1999, p.97-151
- 5) 嶋野道弘; 「総合的な学習の時間との関連」, 新しい教育課程と学習活動の実際 生活, 東洋館出版社, 1999, p.172-176
- 6) 北俊夫; 「求められる評価観の転換」, 新しい学力観に立つ小学校これからの評価とその方法総論編, 国土社, 1995, p.25-35
- 7) 道田泰司; 「メディア・リテラシーから教育リテラシーへー教育における批判的思考ー」初等教育資料No.738, 東洋館出版社, 2001, p.68-71
- 8) 市川伸一; 「21世紀の学力・評価観をどう確立するか」, 総合的な学習の時間の学力と評価を考える, 研究所報 VOL. 25, ベネッセ教育研究所, 2001, p.14-21
- 9) 高浦勝義; 「総合的な学習の時間のねらいと内容の工夫」, 総合学習 1, 黎明書房, 2000, p.10-13
- 10) 高浦勝義; 「評価の目標及び観点の明確化」, ポートフォリオ評価法入門, 明治図書, 2000, p.71-91
- 11) 堀田龍也(編); 「『情報』の学習内容」, 小学校「総合的な学習の時間」実践ブック 3 情報編, 啓林館, 1999, p.13-16

Title : Bringing Up the Pupils Who Solve the Problems Subjectively: Creation of the Curriculum of "Hours of Integrated Studies"

Motoyuki KOBAYASI (Hiyosidai Elementary School)

Abstract : Towards the full enforcement of the newly revised Course of Study from the year of 2002, newly designed "Hours of Integrated Studies" are tackled positively, although various kinds of teaching units have been titled, only there are many activities. There is no learning there, they say. Our school, from 1999, as a research developing school appointed by Ministry of Education, has been studying the curriculum to establish pupils' basic scholarship, researching the mutual relationships and their evaluations among the general subjects, moral hours and special activity hours with the "Hours of Integrated Studies." The followings are the results.
